

■日 時 令和5年10月26日（木）午後2時00分から

■場 所 甲府市役所本庁舎4階 大会議室

■出席委員 15名

■欠席委員 4名

■事務局

保険経営室長、健康支援室長、総務課長、介護保険課長、健康政策課長、医療介護連携担当課長、地域保健課長、健康保険課長 外一般職員6名

■次 第

1 開会

2 議事

(1) 事業内容及び数値目標について

(2) その他

3 閉会

■議事審議内容

(1) 事業内容及び数値目標について

【委員】

施策2の事業「笑顔ふれあい介護サポーター」におけるアウトプット指標の「各種ボランティア活動の活動回数」が現状値含め0となっている理由を教えてください。

【事務局】

各福祉施設で笑顔ふれあい介護サポーターを受け入れる形で活動していたが、新型コロナウイルスの影響で受け入れが中止されており、再開の目途がたっていないため、0としている。再開され次第、適切な数値を設定する。

【委員】

施策2の事業「高齢者スポーツ大会」と「グラウンドゴルフ大会」について、アウトプット指標に参加人数を設定しても良いのではないかと。

【事務局】

人数制限を設けている点や、場所等の都合上年に1回しか開催できない事業もある点から、アウトプット指標は設定していない。今後新型コロナウイルスの影響を考慮しながら、人数制限も緩和していく予定である。

【委員】

アウトプットとアウトカム の捉え方の違いを教えてください。アウトカムはアウトプットをまとめた形になると思うが、各アウトプットについても成果の一つと考えている。

【事務局】

アウトプットは各事業、アウトカムは各施策の成果として位置づけている。アウトカムについては定量的な指標のみでは評価が難しいため、定性的な評価もしていきたい。

【委員】

施策の目的を達成する手段として、各事業があると認識している。インプット・アウトプット・アウトカムの具体例として、道路の渋滞への対策が挙げられる。渋滞が発生している道路において、インプットはヒト・モノ・カネの

投入量、アウトプットはどのくらい道路ができたかというもの、アウトカムは渋滞の緩和という目的が達成されたかということである。

【委員】

施策4の事業「買い物弱者の支援」について、インプット指標の目標値が減少している理由を教えてください。

【事務局】

減少している理由として、セブンイレブンが買い物弱者の支援事業から撤退したということが挙げられる。

【委員】

施策5の事業「成年後見制度の普及・啓発」について、インプット指標である「成年後見制度のチラシ設置場所数」が毎年1件ずつ増えていくことがどのように成年後見制度の普及・啓発につながるのか教えてください。

【事務局】

アンケート調査より、認知度が低い結果となったため、新たにチラシを作成する予定である。そのチラシを設置する場所を毎年1件ずつ増やしていくことで認知度向上につなげる想定である。目標値については、「行政機関」や「銀行」などを1件とまとめてカウントしているが、伝わりづらい表現となっているため記載方法について検討する。

【委員】

施策3のアウトプット指標「地域の話し合いの場（第2層協議体）の設置数」について、現時点の設置箇所数を教えてください。

【事務局】

現在は、12か所であり、R4年度は11か所である。最終的な目標としては31か所であるが、高齢化による担い手不足等が影響して設置が進んでいない。

【委員】

施策4の事業「いきいきサロン」におけるインプット指標「いきいきサロンの設立件数」の現状値が2となっている詳細を教えてください。

【事務局】

令和4年度の新設数が2か所だったため、現状値として設定していた。

【委員】

新設数であると伝わりづらいため、既存のサロンも含めた設置数ではよいのではないかと。また、配食サービスについても同様に現状値を修正してもらいたい。

【事務局】

承知した。ご指摘のとおり、実際のサロン設置数、配食サービスの周知チラシ発送数に修正する。それに合わせて、指標名も修正を行う。

【委員】

いきいきサロンについて、インプット指標が2か所ずつ新設する目標となっているが、おそらく増えないのではないかと考えている。主な理由としては、会場が不足していることが挙げられる。自治会においても会場が気軽に確保できない状況にある。仮に確保したとしても会場までの交通の便も悪いと、各地域に一つ集まれる箇所が欲しい。

【委員】

会場が不足していることは事実である。そのため、地域内に公共施設がないところは食堂を活用しいきいきサロンを設立するなどの工夫をしている。

【事務局】

ご指摘のとおり、いきいきサロンにおいては、会場や参加者数等の様々な課題があるため、社会福祉協議会与連携し課題の整理を行っている。今後、それぞれの地域合わせた協議・支援を行っていききたい。

【委員】

施策8の事業「ACPの普及啓発」について、必要な事業だとは思いますが、介護が必要になる前から、介護予防や健康づくりをできるとよいと考える。また、自分の人生を自発的に考えることを促す取組が必要だと考えている。

【事務局】

ACPの普及啓発においては65歳以上に限らず広く周知を行っていききたい。今年度はACPノートの配布を通じて、元気なうちから自身の人生について考えてもらうきっかけづくりを推進する。また、ワーキンググループを設置し、ACPについての議論を行っているため、引き続き検討していききたい。

【委員】

ACPの普及啓発については、イベント等において若い世代にも働きかけを行っている認識している。

【委員】

施策8のインプット指標「市民・専門職向け普及啓発に係る取組数」において、現状値が3、目標値が400となっている理由を教えてください。

【事務局】

令和4年度の現状値は出前講座の開催数を記載している。加えて、令和6年度以降は今年度から開始するポスターの掲示箇所数を含む数値を記載している。令和6年度以降は出前講座、ポスター、ノート配布等多様な発信ツールを検討していききたい。

【委員】

現状値と目標値でインプット指標の意味合いが異なると考えられる。わかりやすい指標にしてもらいたい。

【事務局】

ご指摘のとおり、意味合いが異なる部分があるため、指標を書き分ける等の修正を行う。

【委員】

市民が集まるための交通手段の確保が必要ではないか。家までの送り迎え等の交通ネットワークの構築を検討してもらいたい。

【事務局】

移動支援については、アンケートからも課題に挙がっている。交通政策課にて、デマンドタクシーの実証実験を行っているため、連携しながら次期計画への記載内容等も検討したい。

【委員】

以前にデマンドタクシーの実証実験を行った際は、うまくいかず、中止となった認識である。赤字路線のため、国・県・市の協力が必須である。運航するだけでは課題解決に繋がらないため、様々な事象を加味して検討してほしい。

【委員】

本分科会の委員会として、交通ネットワークの構築については、実現に向けた検討を依頼する。

【委員】

施策8の事業「病院、診療所等で構成する24時間対応できる連携体制の構築」は受け入れ病院が見つからない現状等もあり、まだネットワークが確立できていない認識である。難しい課題であるとは思いますが、当事業は重要な取り組みであるため、次期期間中に達成できるようにしてほしい。最終的には市立病院の方向性が重要だと考えている。

【事務局】

課題解決のために、市民病院の関係者等を含めたワーキンググループを設置し、新たな取組について検討している状況である。

【委員】

アンケートの中で、言葉の認知を問う設問が多いが、市民にとっては専門的で理解が難しいと想定される言葉もある。

医療・介護においては、身近な相談先を知ってもらうことが重要である。医療については、困った際に診療所に行くのではなく、元気なころからかかりつけ医と話をすることが大事であるため、かかりつけ医制度を推進してほしい。介護については、地域包括支援センターに繋がれば、必要な支援を受けることができると考えているため、相談窓口の普及啓発について検討してほしい。

【事務局】

地域包括支援センターについて、周知活動を積極的に実施している。今後も、行政・民生委員・自治会長等に一度相談してもらえれば、必要な支援を受けられるという仕組みづくりを進めていきたい。

加えて、地区担当保健師については、小学校区に地区担当の保健師の配置をしており、必要な支援に繋げる取組をしている。引き続き保健師の周知活動を行い、必要な時に市民が相談できる体制を整備していきたい。

【委員】

施策9の施策の方向「認知症の方と家族を支える地域（環境）づくり」について、民生委員も役割を担っているが、地域全体の患者を把握することは難しい。市は地域の認知症患者を把握しているのか。もし、把握しているのであれば、民生委員に情報提供することは可能か。

【事務局】

現状、地域包括支援センターに相談があった際に把握するが、全体数は把握していない。民生委員や地域福祉推進員等と連携して支援する必要があるため、本人や家族が同意した場合には、地域包括支援センターから情報を提供することも考えられる。

【委員】

地域包括支援センターの認知度は上がっていると感じている。高齢者福祉ことでの地域の窓口は、地域包括支援センターが担っていくと考えている。

【委員】

様々な施策の中で、高齢者の方々に集まってもらう必要があるが、交通手段の問題がある。そのため、送迎付きで防災訓練を開催するような対応をしており、行政が率先して体制を作してほしい。介護事業所には日中稼働していない社用車等もあるため、活用してもらいたい。

【委員】

施策7の事業「介護基盤の整備」のインプット指標「介護サービスの公募」が検討中となっているが、現時点での検討状況を教えてもらいたい。

【事務局】

現時点でお伝えできる範囲は、資料3のNo.17に記載している内容であり、詳細については検討中である。

【委員】

施策7の事業「介護給付費適正化3事業」の詳細を教えてください。

【事務局】

資料2に記載されている内容のとおり、「要介護認定の適正化」「ケアプランの点検及び住宅改修・福祉用具の実態調査」「医療情報との突合・縦覧点検」の3つである。各インプット指標について、「住宅改修・福祉用具の現地調査件数」は来年度から現地に出向いて調査を行うため設定、「要介護認定の適正化全件実施」は認定調査を委託した場合の調査票の点検を市の職員で全件行うため設定、「福祉用具に重点を置いたケアプラン点検数」はケアプランの中でも福祉用具に重点をおいたため、設定している。

【委員】

医療・介護連携におけるワーキンググループが4月から開催されているが、何も決まっていない認識である。可能な限り医療・介護の連携を進めてもらいたい。

【委員】

施策9において、12事業ある中でインプット指標が「認知症サポーター養成講座開催回数」と「認知症サポーターステップアップ講座の実施回数」となっている理由を教えてください。

【事務局】

数値化が難しい事業がいくつかあるため、まとめて設定している。

上記のインプット指標とした理由は、地域で支える体制づくりのためには、認知症サポーターが鍵となり、普及啓発や予防・早期発見に繋げていく必要があるためである。

なお、アウトカム指標として、「チームオレンジ設置数」を設定した理由は、認知症の方も安心して暮らせる体制づくりのためである。

また、アウトプット指標については、「認知症ステップアップ講座に関する指標」と「認知症サポーター養成講座」を設定した。「認知症ステップアップ講座に関する指標」は、アウトカム指標の達成に向け、認知症を理解してさらに行動していくことが必要であるという理由で、「認知症サポーター養成講座」は認知症を正しく理解することも認知症の普及啓発や予防・早期発見のために必要であるという理由から設定している。

【委員】

他の施策においては、事業ごとにインプット指標を設定している箇所も見られるため、可能な限り指標化してもらいたい。

【事務局】

承知した。ご指摘のとおり、指標化できるもの・できないものを整理して修正する。

(2) その他

【事務局】

資料3と4については、メールにて意見票を送るので、意見があればそちらに記載してもらいたい。次回分科会は11月30日（木）の午後2時からを想定している。

資 料：

1. 高齢者いきいき甲府プラン概略
2. 取組の内容
3. 分科会委員意見対応表
4. アンケート結果対応表